



調査地点4西の流れ込み



ニシ崎



ニシ崎の岩場



調査地点5



調査地点5の植生



調査地点6



ウナリ崎の砂浜



ウナリ崎の岩場

図5 西表島(住吉~星砂の浜~上原海岸)の様子(つづき)

石垣島及び西表島では海岸の奥行き（岸沖方向）が狭く、10m 四方の調査枠を 1 ~ 2 枠しか設置できないことから、漂着ゴミの空間分布を把握するため、2m 四方の調査枠を複数設置する（図 6 参照）。

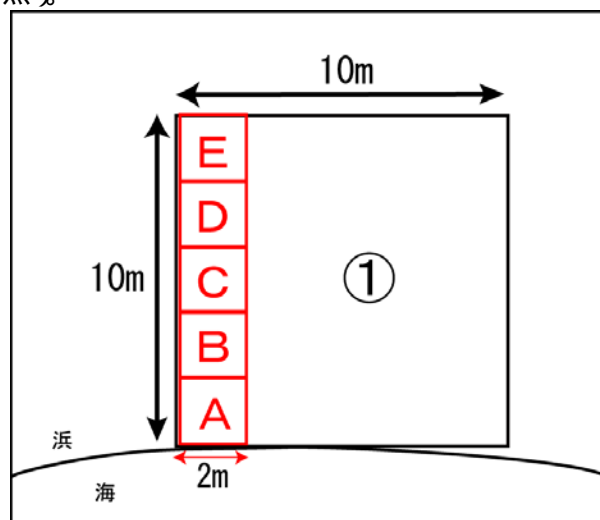


図 6 調査枠内の詳細図

調査枠は次回以降も同じ場所に設置するため、正確な位置を測定する（参考資料 2：「クリーンアップ調査 共通調査作業手順書」参照）。

(3)回収・分類・集計方法

設定した調査枠内のゴミを回収し、種類ごとに分類して個数、重量、容量を計測する。ゴミの分類は、下記の要領で作成した分類リスト（表 1）に従う。

既存の分類リストには、大きく分けてゴミの材質から分類したリスト（(財)環日本海環境協力センター：NPEC）とゴミの発生源から分類したリスト（JEAN / クリーンアップ全国事務局、国際海岸クリーンアップ：ICC）の 2 種類がある。本調査結果と既存調査結果を比較する際に、2 種類のリストで分類された結果との比較を可能にするため、本調査では 2 種類の分類リスト全ての小項目を網羅する分類リストを使用する。

この分類リストの小項目を集計することにより、既存の 2 種類の分類リストとの比較が可能である。既存の 2 種類の分類リストと本調査の分類・集計の関係を図 7 に示す。

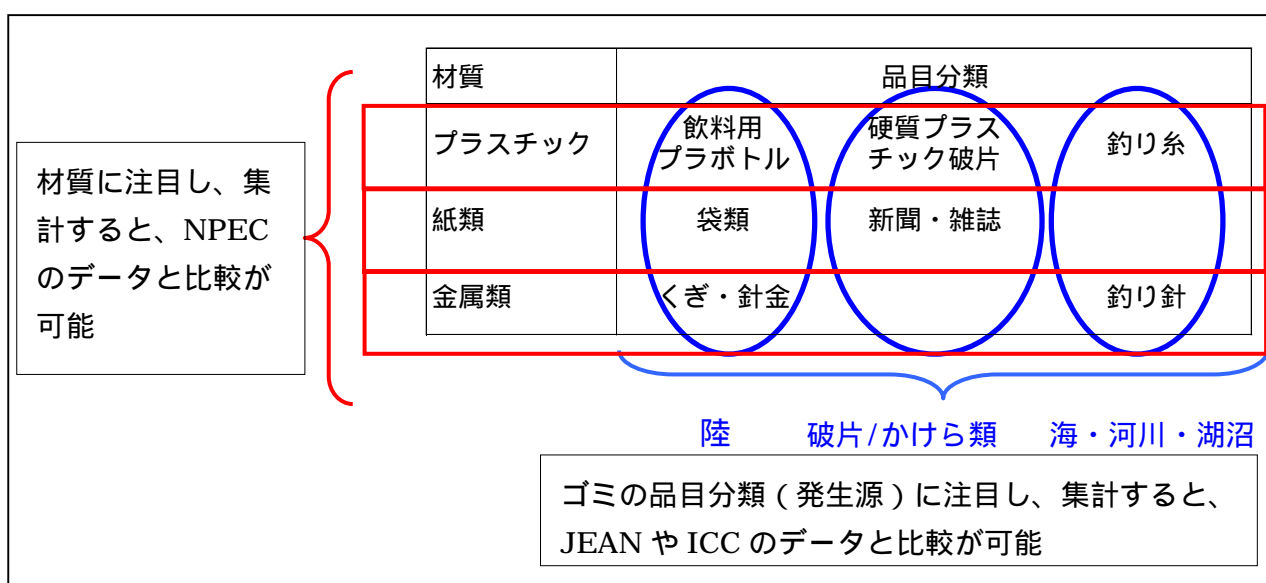


図 7 分類・集計の基本的な考え方

3.4 フォローアップ調査の内容

共通調査（クリーンアップ調査）で得られた調査枠内のゴミの種類別データを用いて、ゴミの量（個数、重量）の空間的分布をゴミの種類ごとに把握する（図 8）。また、ゴミの空間的分布の時間変化をゴミの種類ごとに把握し、風などの自然条件との関連性を解析することで、時間変動要因を検討する（図 9）。

ゴミの空間分布には海岸の傾斜が関係すると想定されるため、共通調査時に海岸の傾斜度を測定し、海岸の傾斜を考慮したゴミの空間分布の解析を行う（図 10）。

また、文字、記号、バーコード等による発生場所の推定、キャンペーンシール、付着物、表面の劣化等による漂流時間の検討を行う（図 11、表 2）。

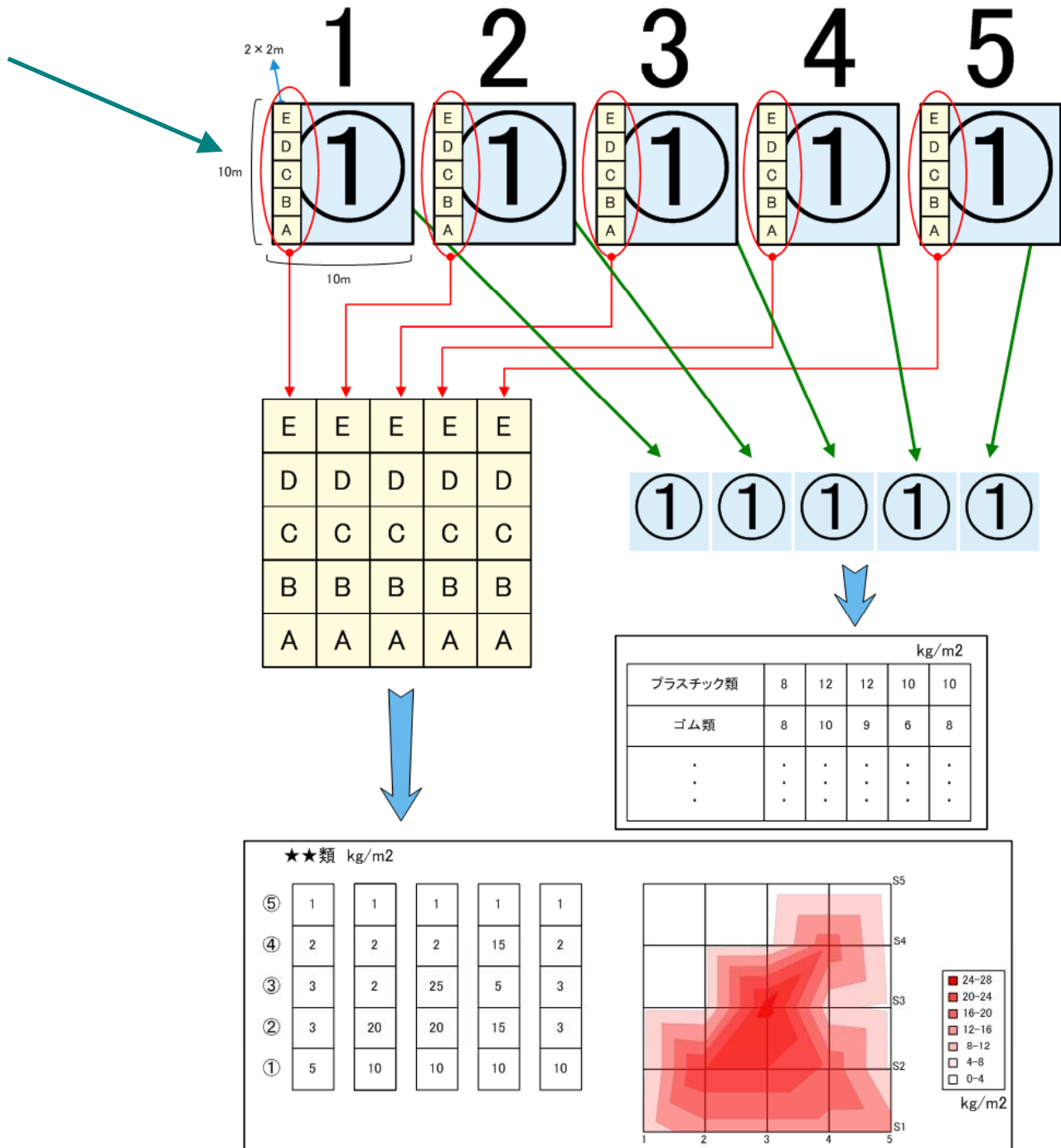


図 8 ゴミの量の空間分布の解析例

表 1 漂着ゴミ分類リスト(案) (1/2)

大分類	中分類	品目分類
1.プラスチック類	袋類	食品用・包装用
		レジ袋
		菓子類包装紙
		6パックホルダー
		農薬・肥料袋
		その他の袋(具体的に)
	プラボトル	飲料用プラボトル
		食品用プラボトル
		洗剤、漂白剤等
		スパイス・ソースのボトル
		その他のプラボトル
	容器類	カップ、食器
		食品トレイ
		スパイス用容器
		ふた・キャップ
		その他の容器類
	ひも類・シート類	ひも・ロープ
		シート状プラスチック
		荷作り用ストラップバンド
		テープ
	雑貨類	ストロー
		タバコのフィルター(吸殻)
		葉巻の吸い口
ライター		
おもちゃ類		
文房具類		
シート状プラスチック		
苗木ポット		
その他の雑貨類		
漁具	釣り糸	
	釣りのルアー・浮き・蛍光棒(ケミホタル)	
	フイ	
	魚網、漁業用ロープ	
	かご漁具	
	カキ養殖用パイプ	
	釣りえさ袋・容器	
	その他の漁具	
破片類	シートや袋の破片	
	プラスチックの破片	
	レジンペレット(プラスチック粒)	
	その他具体的に	
2.ゴム類・皮革類	ボール	
	風船	
	ゴム手袋	
	輪ゴム	
	くつ・サンダル	
	ゴムの破片	
	その他のゴム製品(具体的に)	
	その他の皮革製品(具体的に)	
3.発泡スチロール類	容器・包装等	食品トレイ(食品の包装・容器)
		カップ
		弁当・ラーメン等容器
	フイ・トロ箱	フイ
		魚箱(トロ箱)
発泡スチロールの破片	発泡スチロール破片(大)	
	発泡スチロール破片(小:1cm ³ 以下)	
	その他具体的に	
4.紙類	容器類	紙コップ
		飲料容器(紙パック)
		紙皿
	包装	紙袋
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)のみ
		菓子類包装紙
		段ボール(箱、板等)
		紙の箱
	花火の筒	
	紙片(筒、紙製のもの)	新聞、雑誌、広告
	ティッシュ、鼻紙	
	紙の断片	
その他	タバコ(中身のタバコ、パッケージ含む全部)	
	その他具体的に	